

科目名	看護科学特別実習（CNS役割実習） Practice in Nursing
授業形態	実習
標準履修年次	2年次
実施学期・曜時限等	通年 応談
実施場所	実習施設(筑波大学附属病院、国立がん研究センター東病院等)
単位数	2単位
担当教員名	山下美智代 Yamashita Michiyo 水野道代 Mizuno Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	事前に予定を確認の上で訪室すること
授業の到達目標 (学習成果)	専門看護師の役割(実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整)をがん看護専門看護師とともに実践し、専門看護師としての役割と機能を果たす能力を習得する。
他の授業科目との関連	
履修条件	専門看護師養成プログラム(がん看護)の受講者であること。
授業概要	がん看護専門看護師の指導のもと、専門看護師の活動を実践体験を通して学ぶ。
キーワード	専門看護師の役割、実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整
授業計画	1 がん看護専門看護師が活動する医療施設で実習を行う。 2 実習目標に沿って、専門看護師に必要とされる6つの能力を効果的に習得できるように、実習指導者と相談しながら実習計画を立案する。 3 看護師を含むケア提供者に対して行う実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整の場 にがん看護専門看護師とともに参加し、専門看護師の役割を分析・考察し、記録する。 4 常に実習計画の実施状況を振り返りながら、実習目標の達成に向け実習計画の修正 を行う。 5 看護科学特別実習での実施内容については、実習要項の書式に従い、その成果を 報告する。
学修時間の割り当て及び授業 外における学修方法	実習期間にとらわれることなく、実習施設等のがん看護に関連する医療活動に関わる機 会を積極的にもつことも必要である。がん看護や緩和ケアに関する研修会や講習会に 積極的に参加することが望まれる。
成績評価方法	実習計画書の作成、実習計画書にもとづいた実習、最終レポートの提出とする。 評価方法と評価配分 実習目標の達成度70%、カンファレンス10%、最終レポート20% 評価基準 1 がん看護専門看護師が患者・家族に提供する高度な実践の目的や内容について述 べることができる。 2 がん看護専門看護師が、院内で行っている教育活動の目的や内容について、述べる ことができる。 3 がん看護専門看護師が行うコンサルテーションの特徴や具体的方法を述べるこ とができる。 4 がん看護専門看護師が行う、他職種との調整を必要とする主な問題や調整上の留意 点、具体的方法について述べるこ とができる。 5 がん看護専門看護師が扱う主な倫理的問題およびその対応について、述べるこ とができる。 6 がん看護専門看護師が実施・指導している研究活動の目的や内容について述べるこ とができる。 7 がん看護専門看護師の6つの役割・機能のうち、ひとつ以上を体験することができる。 上記に対応した評価基準は以下のとおりである。 A+ 上記1～7を自身で達成、評価し、新たな自己の課題を明確にできる A 上記1～7を自身で達成し、自己および他者評価も踏まえた上で、達成度を評価できる B 上記1～7をほぼ自身で達成できる C 上記1～7を教員の指導を受けながら概ね達成できる D 上記1～7について教員の指導のもとでも達成できない
教材・参考文献・配布資料等	これまでの学習において使用した著書や文献を各自で効果的に活用すること。
その他(受講生にのぞむことや 受講上の注意点等)	関連著書や論文を十分に活用し、積極的・主体的に実習に臨むこと。